

がんば！！

NO, 9

日本赤十字社新潟県支部

事業推進課 事業係



2001

Winter

いんふおめーしょん

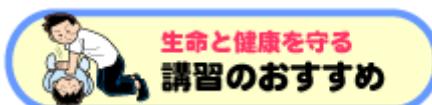
12月

- 2日 家庭看護法短期講習会（三条市総合福祉センター）
- 4日 能生町赤十字奉仕団見学研修会（長岡赤十字病院）
- 8日 NHK 海外たすけあい街頭募金
(県内青年赤十字奉仕団：万代シティ)
- 8日 上越地区安全奉仕団研修会（新井市）
- 28日 仕事納め（^.^）

1月



- 4日 仕事始め（^.^）
- 19, 20日 中越地区安全奉仕団研修会（上越国際会館スキー場）
- 22日 紫雲寺町赤十字奉仕団見学研修会（日赤県支部）
- 27日 防災ボランティアサブリーダー研修会（日赤県支部）



救急法・家庭看護法・水上安全法・幼児安全法の講習会については、下記にお問い合わせください。

日本赤十字社新潟県支部 事業推進課 普及係

TEL 025-231-3121



赤十字ボランティアリーダーシップ研修会

平成13年11月10日（土）～11日（日）川口町：サンローラ川口を会場に、平成13年度赤十字ボランティアリーダーシップ研修会を開催しました。

今年から地域・青年・アマチュア無線・安全・特殊等の奉仕団全団を対象にした研修会ということもあり、県内様々な所から、様々な種別の奉仕団の方々が参加しました。（県内31団：55名参加）

1日目

○開会式 あいさつ 荒井事務局次長



○奉仕団の信条唱和

新潟青年赤十字奉仕団

堀江さん・福田さん



○研修①『みんなでたのしもう！！（アイスブレーキング）』



・山本奉仕団指導講師より参加者の緊張を解すためにレクリエーションをしてもらいました。

○研修②『いま何故赤十字奉仕団何だろう？？』



・当支部鶴巻課長より「赤十字にとって赤十字奉仕団とはどんな存在なのか！！」について熱弁（^o^）ノ。

○研修③『家庭看護を体験してみよう！！』

- ・佐々木主査より指導。家庭看護については風呂敷での防空頭巾の作り方や車椅子での運搬、HOTタオルの作り方など皆さんが日常的に実践できうることを学びました。



○研修④『みんなが参加できる地域福祉活動と災害救護活動』

- ・各グループに架空のボランティアグループを作ってもらい、その活動内容や運営方法についてグループで研究しました。



2日目

○研修⑤『応急手当の技術をマスターしよう！！』



- ・大倉、倉品両指導講師より指導。身近な応急手当の方法が参加者に大変講評でした。
- ・朝一の研修は体を動かすのが一番ですね。みなさん目が覚めたんじゃないかな？

○研修⑥『よいグループ作りと奉仕団の自主運営』



- ・荒井次長より「県内のボランティアの様子」について講話。行政の立場でボランティアについて話をいただきました。

- ・グループワークも二日目になるとみなさんとも積極的に取り組んでいました。夜の研修の成果でしょうか！？



○閉会式 講評 山本指導講師



最後に

記念撮影

- ～参加者アンケート（抜粋）：Q 赤十字及びこの研修会に対する意見をお寄せください？～
- 赤十字関係施設等の見学を計画してください。有意義な時間を過ごすことができました。
　ありがとうございました。
 - バランスの取れた研修会で満足しています。有難うございました。
 - 限られたスタッフでの運営で大変だと思います。これからも頑張って、私達の指導をお願いします。
 - 地域でこのような研修会があればよいと思います。
 - 今回初めて参加しました。今後もぜひ参加したいと思います。
 - 大切な事を今回は短い時間の中で知りました。もっと多くの人達に赤十字について知って貰いたい。
 - サイコ～！！みんないい人！！
 - 赤十字の命と尊厳を何よりも大切にするという理念は、今の世界で本当に大切なことだと思います。
 - いつもご苦労さまです。協力させてください。
 - もっともっと応急手当を広めるよう、小中学校でもPRした方がいいと思う。
 - これからもみんなで協力して頑張って行きましょう！！ちゃんと献血します。
 - もっと赤十字のことをPRして知ってもらうと良いのでは？
 - 仕事の内容等、まだ分からぬ事ばかりです。これからも地域の中にどしどし参加してください。
 - 青年奉仕団に入団してから、県内をはじめ全国に仲間ができ、とても充実した人生が送っています。
 - 赤十字の信条や活動を県民にアピールし、盛り上げていきたい。



海外赤十字ボランティア国際交流事業

～アメリカ赤十字社ボランティア マイク・シュイト氏を向かえて～

11月25日から30日（5泊6日）の日程でアメリカ赤十字社よりマイク・シュイト氏を新潟に迎え、赤十字奉仕団との交流や県内赤十字施設の見学を行いました。

11月26日【滞在2日目】

災害支援ネットワーク上越・上越災害救護赤十字奉仕団のみなさんと交流会。災害救護活動についてのお話をしました。（上越市民プラザ：上越市）



新潟日報の記者が取材に来ました。

翌日の新聞に掲載

（ホテルα-1 ロビー：上越市）



11月27日【滞在3日目】

日本海の魚を見に行きました。水族館ではなくて、魚屋です。

（日本海フィッシャーマンズケープ：柏崎市）



長岡赤十字病院を見学しました。とても大きくて驚いていました。案内は渡辺庶務課長がしてくれました。

（長岡赤十字病院：長岡市）



長岡赤十字看護専門

学校を見学しました。藤田副校长が案内してくれました。（長岡赤十字看護専門学校：長岡市） →





長岡赤十字病院にて救護班との懇談会を行いました。みなさん得意の英語が飛び交っていました。それでもさすが平野先生という感じでした。

(長岡赤十字病院：長岡市)



11月28日【滞在4日目】



救急法指導員の樋浦三男先生（安全奉仕団五泉市分団委員長）のご自宅（そば道場）でそば打ち体験をした様子です。県立女子短期大学青年赤十字奉仕団の団員も参加してくれました。それにしても美味かった～(^.^)



自分で作ったそばをいただきました。食べ過ぎてこの日の夕食はぬきました。
(樋浦先生宅：五泉市猿和田)

11月29日【滞在5日目】



中条町赤十字奉仕団の皆さんと救急法講習をしました。マイクも真剣に三角巾の巻き方を覚えていました。救急法のやり方はアメリカも同じだそうです。（中条町）

マイク氏はニューヨーク同時多発テロに赤十字ボランティアとして救護活動に参加した後の来日ということで、各地域での交流会でニューヨークの活動の様子を話してもらいましたので、まとめてみました。

N. Yでの活動について

<はじめに>

N. Yでの事故が起きた時、アメリカ赤十字社は 1,000 名のボランティアを必要とする判断と要請アピールを出しました。しかし、下記のチーム (mission 5) を送り込む為には、発災後 24 時間以内に 1,000 万ドルのコスト必要となることから、すぐに資金の募集も始めました。

また同時にアメリカ赤十字社航空機事故対策チームが立ち上りました。通常は負傷者を 500 名程度の救援に組織されたチームですが、今回の事故では 7,000 名以上の負傷者の救護にあたりました。

【N. Yで活動するため事前に必要だったもの】

Trouble (トラブル) …災害の規模

Security (セキュリティー) …救護者の安全面

List (リスト) …救護を必要とする者のリスト

Money (マネー) …活動に要する資金

<MISSION 5 ミッションファイブ>

災害時に赤十字の行う活動を 5 つのミッション (使命) として分類し活動する。その活動は主に資格を持ったボランティア (アメリカ赤十字社が行う研修を受けたものに資格を与えていた) が運営し、ミッションファイブはこのチーム名にもなっている。

- ファミリーサービス
- 災害サービス
- 被災者メンタル
- マスケア (大衆に対するケア)
- 災害社会福祉



<MISSION 5 の活動>

- ファミリーサービス

主な活動は被災者が社会復帰するまでの支援となる。衣食住に関する分野での需用に対して調査し、直接家族に対して援助を行う。11月 17 日までに 2,500 家族に対して援助を行った。また、被災者救援を活動の一部としている為、発災後 30 チームで 6 日間にわたり 600 軒の倒壊したアパートの中から生存者救出にあたった。

※ファミリーサービスは別名 Disasuter Acution Team (災害活動チーム) と呼ばれ 24 時間体制で 1 チーム 3~4 名で構成されている。

●災害サービス

今回の場合は住居が無くなった方々を受け入れる仮設住宅（シェルターという言葉を使っていた）を作り、家が倒壊した方の受け入れと診療所の設置を行った。

診療所を設置する関係から、チームのメンバーの中には医師・看護婦が入っており、被災者のみならず警察官や消防隊員で活動中にケガをした方々の救護も行った。人数でいくと 11 月 6 日までに 25,000 名を救護所に受け入れている。

●被災者メンタル

被災者的心のケアが主な活動となる。発災直後だけでなく、日常生活に復帰するまで時間をかけてケアにあたる。

●マスケア（大衆に対するケア）

被災者に対して食糧を提供するのがこのチームの大きな役割である。日本と違うところは、現場で炊出しをするのではなく、企業に交渉して食糧を提供してもらうように手配を進めるたり、コックをボランティアとして招集し、使用可能なレストランなどで調理にあたらせるのが最初の活動となる。

また、宗教的な配慮も必要となるため 3~4 種類のメニューを準備して提供しなければならない。配布方法は 3~4 種類のメニューを短時間でさばくため、スタンドカー（日本の屋台を大きくしたような車）をメニューに応じて準備し、被災者が食べたい物の前に列を作る方法を用いる。

●災害社会福祉

人名調査のことである。世界 64 カ国の赤十字社と独自のネットワークを作り調査にあたる。

●その他

上記の活動のために少ない期間に多くのお金が集まった（30,000 万ドル）これをどのように使うかが一番考えさせられたことである。

【問題点】①近くに銀行が無いので引き出せないこと

②被災者への授与方法

③ニーズの調査と使い方

※Mission5 に寄せられた寄付金はこの災害で全部使用しなかった場合は次の災害時に繰り越すことができる。

みなさんへのメッセージ

- アメリカ赤十字社では救護活動中に「チョット待って」という言葉は使わない。必ず「すぐやります」と答えなければならない。（長岡赤十字病院懇談会にて）
- 人を助けることには年齢制限は無い。（中条町赤十字奉仕団との交流会にて）
- どこの国に行っても赤十字ボランティアは世界共通です。どの国に行っても同じ笑顔をしているんです。（中条町赤十字奉仕団との交流会にて）

編集後記

アメリカ赤十字社よりマイク・シェイトさんを迎えて、5泊6日にわたり赤十字奉仕団との交流や赤十字施設の見学に様々な地域へお邪魔しました。(皆さんお世話になりました)

私も大学時代に勉強したはずの英語をここぞとばかりに…と意気込んでいましたが、新幹線ホームでお迎えするなり『How are you!!(ごきげんいかがですか?)』なへんて言ってしまい。恥ずかしいやら情けないやら(^_^;)。

彼は40カ国以上の国で赤十字ボランティアとして活躍し、世界中に赤十字の仲間がいます。交流を通じ、世界中の赤十字ボランティア・関係者がみなさんと同じように頑張っていることを強調していました。彼はみなさん一人一人の様々な活動が、世界につながっていることを伝えたかったんですね。これが赤十字活動なんですね。

今年も大変お世話になりました。よいお年を！！

Merry Christmas and Happy New Year !!

英語の勉強がんばろ～っと

事業係 小原 大介



情報をおまちしております

「がんば!!」は、県内赤十字奉仕団の情報を共有する場です。奉仕団の活動紹介、新聞・広報誌などで掲載された記事ほか地元の美味しいお店、観光スポットなど赤十字に関係あるものないもの何でも結構ですので、できれば写真を添えて当支部まで原稿をお寄せください。また、取材にもまいりますのでお電話もお待ちしています♪

※情報を提供してくれた方には、もれなく粗品をお送りさせていただきます。

日本赤十字社新潟県支部 事業推進課 事業係

〒951-8127

新潟市関屋下川原町1-3-12 Tel1 025-231-3121

